

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4679000127
法人名	有限会社 孝誠
事業所名	グループホーム がじゅまる
訪問調査日	平成 21 年 8 月 21 日
評価確定日	平成 21 年 10 月 15 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 9月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	4679000127
法人名	有限会社 孝誠
事業所名	グループホーム がじゅまる
所在地	鹿児島県大島郡喜界町大字志戸桶4545番地 (電 話) 0997-55-5077

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成21年8月21日 評価確定日 平成21年10月15日

【情報提供票より】(21年 7月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 7月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	13 人 常勤 7人 非常勤 6人, 常勤換算 9.55人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建て	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	光熱費(月額)	6,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 800円				

(4)利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関


協力医療機関名	喜界徳洲会病院 中澤医院 林歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

喜界島に唯一のグループホームがじゅまるは、平成15年から代表者でもある管理者が、生まれ育った喜界島に地域の高齢者が集う場所、がじゅまるの木の木陰に集ってほしいという気持ちで立ち上げたグループホームである。グループホームの利用者とデイサービスの利用者が、毎日一時間、口腔体操・心身機能活性運動療法を職員と一緒に楽しく行い、利用者の筋力低下の予防・筋力増進になり、事業所内をほとんど歩いて移動している。家族は、「利用者が入居してから元気で明るい笑顔が見られるようになった」と喜んでいる。職員もゆとりのある人員で、利用者と一緒に接することができ笑顔を大切にして、家族のように思い、利用者のできる事への支援に努めている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年の外部評価は、改善点が無く、職員会議・運営推進会議で報告し、家族に送付している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、2月から6月までかけて、数項目に分けて話し合い、職員の意見をまとめて作り上げている。職員自身が介護を見つめなおす機会となっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	町職員・包括支援センター職員・民生委員・地区長・家族代表が参加して、奇数月に2ヶ月毎に開催している。地域の方が参加していただけるので、地域との連携が取れるようになっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を遠足時・敬老会時に開催し、意見を表せる機会を設けている。面会時・電話で随時家族の意見を伺うようにして、出された意見は職員と話し合い運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の方々を偶数月に、事業所に招待してゲームなど楽しんでもらい利用者で交流してもらっている。集落の運動会に出かけて、見学したり、地元の方々との会話を楽しんでいる。地域の幼稚園の訪問・小学校の総合的学習の受け入れを行っている。町担当者に、緊急時の避難先の確保や、災害時の細かな取り決めをサポートしてもらっている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスへの変更と同時に職員全員で話し合い、「家族の絆、地域の絆を共に大事にしていきたい」と理念に掲げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念をホールに掲示して、職員は、地域に出かけた折に、利用者の知人に声かけ、挨拶に心がけ理念の実践に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方々を偶数月に、事業所に招待してゲームなど楽しんでもらい利用者と交流してもらっている。集落の運動会に出かけて、見学したり、地元の方々との会話を楽しんでいる。地域の幼稚園の訪問・小学校の総合学習の受け入れを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、2月から6月までかけて、数項目に分けて話し合い、職員の意見をまとめて作り上げている。職員自身が介護を見つめなおす機会となっている。昨年の外部評価は、改善点が無く、職員会議・運営推進会議で報告し、家族に送付している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町職員・包括支援センター職員・民生委員・地区長・家族代表が参加して、奇数月に2ヶ月毎に開催している。地域の方が参加していただけるので、地域との連携が取れるようになっている。		

鹿児島県 グループホームがじゅまる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	緊急時の避難先の確保や、災害時の細かな取り決めにサポートしてもらっている。管理者は町の運営する包括支援センター・教育委員会が主催する介護教室や高齢者学級で講師をする等、地域福祉に携わったり、民生委員の見学を受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月次報告(血圧・体重・食事・入浴・排泄・睡眠・介護計画の当月状況・日々の出来事)など、細かい内容を担当職員が書き、家族に報告している。職員の異動等は、書類送付の中で、報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を遠足時・敬老会時に開催し、意見を表せる機会を設けている。面会時・電話で随時家族の意見を伺うようにして、出された意見は職員と話し合い運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少なく利用者へのダメージは少ない。また、職員は、同じTシャツ・エプロンを付け、利用者が職員と分かりやすいように工夫している。新人職員には、指導者を付け利用者と早く馴染みの関係になれるように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケア会議の中で、外部研修報告をしながら研修をしている。ヒヤリハットの報告を兼ねて検討会をしている。	○	研修の年間計画を作成し、事業所内部研修の充実を期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	喜界島内のグループホームは、当事業所のみなので、大島郡グループホーム協議会に、職員が参加して、年一回他のグループホームの見学・研修をしている。これからは実施する計画がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	共用型デイサービスからの利用者がほとんどで、職員の顔も知り、グループホームの利用者とも馴染みの関係が築かれているため、入居時混乱も少ない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節の行事・紬織りの話・牛を飼っていたときの話などしてもらったり、昔の言葉や生活の仕方を学んだり利用者と共用部分で一緒に過ごしながら喜怒哀楽をともにして、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が記録する24時間のケース記録に、その利用者の発する会話の内容を書きとめるように心がけ、その中から思いや意向を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の意向は、ケース記録から把握し、家族からは面会時に意向を聞き、ケア会議で職員と話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケア会議で利用者の一人ひとりの健康状態・出来ていたことが出来なくなったことの話し合いを行い検討して、介護計画の見直しを行っている。また急に変化が生じた場合は、関係者と話し合い現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望に応じて、病院受診介助・買い物・理美容院への外出支援を行っている。負担となる受診や入院の回避のためにかかりつけ医の往診をお願いし、柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医になっている。緊急時・他科受診への紹介など、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看とりの経験があり、事業所としての対応の指針を作成している。家族・主治医と繰り返し話し合い方針を決めつつ対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、入職時に守秘義務についての契約書を交わしている。プライバシーについての勉強会はしていない。記録物は事務所に保管している。	○	「プライバシーの確保の徹底」を研修計画に取り入れ、全職員が、個人情報保護法を理解し、秘密保持の徹底を図ることを望みます。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝寝坊したり、自分の好きな場所で過ごしたり本人のペースを大切に支援している。ドライブ・買い物・知人宅訪問など利用者の希望に出来るだけ添えるように支援している。		

鹿児島県 グループホームがじゅまる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け・片付け・茶碗洗いなど利用者の力量に応じて發揮してもらっている。誕生日に合わせて行事食を作り楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯は決めず、希望や状況に応じて入浴している。毎日の希望・夕方入浴も可能である。拒否する方には、声かけの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事に関する一連の作業・洗濯物たたみ・寝具類のたたみ・食材の買い物など利用者の力量にあった役割をしていただき、2ヶ月毎の地域の方々との交流会・ドライブ・春の遠足・外食・六調踊りなど楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	デイサービス利用者を送りがてらのドライブや事業所の敷地内を歩いたり、がじゅまるの木の下で涼んだり、お茶を飲んだり、戸外に出かけられる支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関の鍵はかけず、利用者の行動を把握して出かけた場合は、利用者に付き添って出かけている。地域の方々へ見守りや声かけの協力もお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を消防署指導の下1回、自主訓練1回の計2回行っている。災害時の緊急避難先を確保している。近隣の方々に協力をお願いしている。	○	地震・夜間・水害など色々な想定での避難誘導訓練を重ね、職員が自信を持って誘導できることを望みます。

鹿児島県 グループホームがじゅまる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックをして、栄養バランスを保健センターの栄養士にアドバイスをもらっている。季節・夜間に個々に合わせて水分補給をしている。利用者の状態に合わせて刻み食・ミキサー食など支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール(居間兼食堂)は、天井が高く広々としている。利用者は日中、料理のできる匂いがして、島唄の音楽が流れるホールで食卓用のイスや隅々に置かれたソファに座って思い思いに居心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳とフローリングの部屋があり、ベッドでも布団でも利用者の好むスタイルで生活できるようになっている。衣装ケース・パイプハンガー・時計・家族の写真が持ち込まれ、利用者それぞれの部屋が作られている。		